
高齢透析患者の食欲評価とポリファーマシー

医療法人衆和会 長崎腎病院
長崎大学医歯薬学総合研究科 腎臓内科

○納富智子 北村峰昭 小嶺真耶 澤瀬健次 船越 哲

【目的】

高齢透析患者の食欲と服薬との関連を考察する。

【方法】

2021年10月に当院で血液透析を受けた65歳以上の患者233名を対象とした。Simplified Nutritional Appetite Questionnaire for Japanese Elderly (SNAQ-JE)を用いて患者の食欲を評価し、電子カルテより処方薬剤数を把握した。SNAQ-JE合計点14点以下を食欲不振群、15点以上を良好群としてWilcoxonの順位和検定により薬剤数を比較した。ロジスティック回帰分析を用いて、食欲不振と関連する薬剤を検証した。

【結果】

食欲不振116名、良好群117名であった。降圧薬処方数は良好群で有意に多く($p=0.03$)、睡眠薬処方数は食欲不振で有意に多かった($p=0.002$)。睡眠薬処方数は食欲不振と有意に関連していた(オッズ比, 2.08; 95%信頼区間, 1.32-3.27; $p<0.001$)。

【考察・結論】

高齢透析患者において、降圧薬は、食欲に良い影響を及ぼすことが示唆された。睡眠薬は食欲不振と関連していた。薬剤性食欲不振の改善には、処方薬の適切なスクリーニングが必要であると考えられた。